

ちょっと気になるデータ

# 産業別就業者数

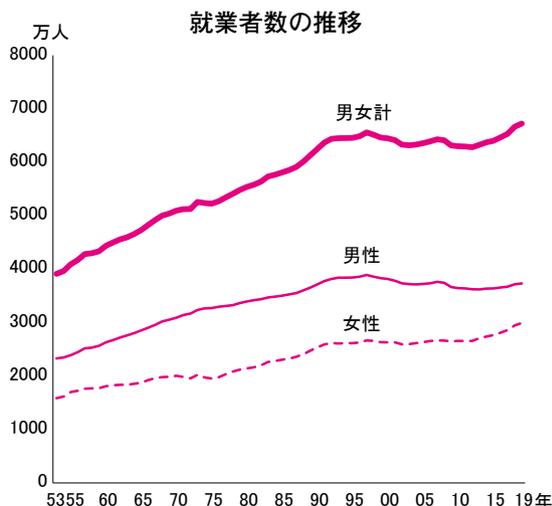
## —労働力調査(基本集計)2019年(令和元年)平均結果から—

2020年1月に、総務省統計局から労働力調査(基本集計)の2019年平均結果が公表された。この中から、就業者<sup>注</sup>についての統計をみてみたい。

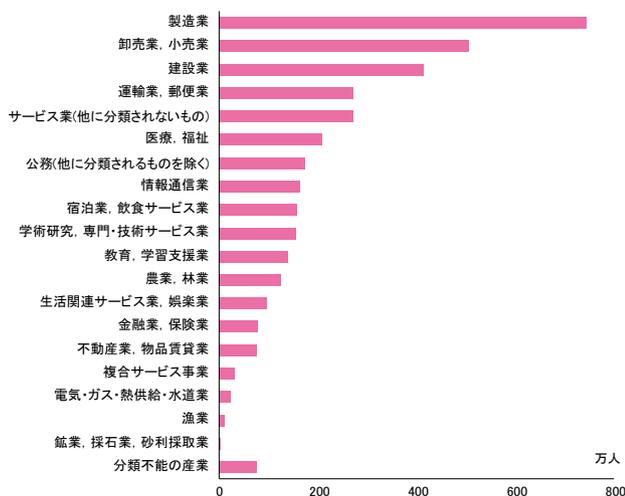
2019年平均の就業者数は6724万人で、前年に比べて60万人の増加、2013年以降連続で増加しており、また、比較可能な1953年以降で過去最多となっている。男女別にみると、男性就業者数は3733万人で前年に比べて16万人の増加、女性就業者数は2992万人で46万人の増加となっている。

産業別にみると、「製造業」が1063万人と最も多く、次いで「卸売業、小売業」1059万人、「医療、福祉」843万人などとなっている。前年と比べると「教育、学習支援業」で13万人の増加、「医療、福祉」で12万人の増加、「サービス業(他に分類されないもの)」で10万人の増加などとなっている一方、「卸売業、小売業」で13万人の減少、「建設業」で4万人の減少などとなっている。

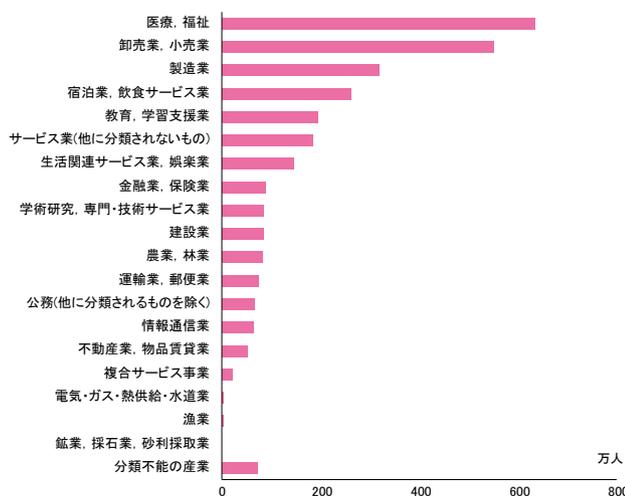
次に、産業別の就業者数を男女別にみる。男性では、「製造業」が744万人と最も多く、次いで「卸売業、小売業」507万人、「建設業」415万人などとなっている。この3つの産業で男性就業者数全体の約4割を占めている。女性では、「医療、福祉」が635万人と最も多く、「卸売業、小売業」552万人、「製造業」319万人がこれに次ぐ。この3つの産業で女性就業者数全体の約5割を占めている。



2019年 産業別就業者数 男性



2019年 産業別就業者数 女性



注 「従業者」と「休業者」を合わせたもの。「従業者」とは調査週間に収入を伴う仕事を1時間以上した者。「休業者」とは仕事を持ちながら、調査期間中に少しも仕事をしなかった者のうち、①雇用者で、給料・賃金の支払を受けている者又は受けることになっている者、②自営業主で、自分の経営する事業を持ったまま、その仕事を休み始めてから30日にならない者。詳細は総務省統計局「労働力調査」の用語の解説 (<http://www.stat.go.jp/data/roudou/definit.html>) を参照。

(調査部 統計解析担当)